



済生会富山病院報



裏磐梯

臨床検査科 山本富夫

目次



「患者さん満足度調査の結果」について
 2～4

7対1看護体制について 5

認定看護師について 6～8

済生会学会・総会（永年勤続表彰）
 9

部署紹介・新人自己紹介・・・ 10～11

脳卒中合宿セミナー 12

患者さん満足度調査の結果について

当院は、日頃より医療サービスの質の向上を目指して改善に取り組んでおります。そのために定期的に患者さんからのご意見をいただく「患者さん満足度調査」を実施いたしております。今年は、平成20年2月より3月にかけて、外来、入院に分けてアンケート調査を実施させていただきました。このたびその結果がおおむねまとまりましたのでご報告いたします。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

1.患者さん満足度調査の結果 〈外来部門〉

平成20年2月の3日間に、外来患者さんに、下の表に示す各項目についてアンケートによるご評価をいただきました。詳細は、下の表をごらんいただければ結構ですが、ここに大体の結果を述べさせていただきます。

施設面においては、当院の立地条件を反映して「交通の便利さ」の項目で、ご不満の割合がやや多い結果でした。また「売店、食堂、自動販売機」の項目でもご不満がやや多く見られましたが、平均的な病院を上回っていると評価いたしました。

接遇面においては、全般的に良好とのご評価でした。

診察サービス面においては、「診察待ち時間」、「診察時間」、および「診察後の支払いまでの待ち時間」など、診療の時間に関する項目へのご不満が高く、前回調査時よりも満足度の低下が見られました。当院の最大の現在の課題と思われます。今後、医師数の増員など医療面での体力強化を図る、また地域の開業の先生方などの病診連携を推進して、より重症の患者さんへの手厚い診療を進めるなど、改善を図っていきたいと思います。また、施設面、接遇面でも、これで満足することなく更なる改善を目指したいと思います。

・調査期間:平成20年2月19日(火)～2月21日(木)
・回答者数:689人

〈凡例〉 (%)

非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満+不満
-------	----	-----------	---------

*インデックスは、非常に満足(100点)、満足(75点)、どちらともいえない(50点)、やや不満(25点)、不満(0点)の合計点
インデックス(100点満点)

項目	非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満+不満	インデックス
施設面					
①交通の便利さ	18.7	46.7	23.7	10.9	67.2
②駐車場の広さや入りやすさ	20.1	54.3	17.0	8.5	71.1
③建物の外観やつくり	18.7	65.3	15.9	0.2	75.6
④総合待合室の設備や雰囲気	16.2	65.2	17.2	1.5	74.0
⑤各科の待合室の設備や雰囲気	14.7	60.2	21.8	3.2	71.5
⑥トイレや洗面所設備	18.3	61.8	14.7	5.3	72.9
⑦売店、食堂、自動販売機	11.1	48.3	31.1	9.4	65.1
⑧案内看板や表示のわかりやすさ	11.9	61.5	23.2	3.3	70.3
⑨清潔感	20.9	64.8	13.1	1.3	76.3
●施設面全般について	14.1	67.8	17.9	0.2	74.0
接遇面					
①総合案内や会計の対応	17.9	62.6	17.4	2.0	73.9
②各科診療受付の対応	19.2	64.8	15.1	1.1	75.5
③看護師の言葉遣いや態度	25.0	65.4	8.6	0.9	78.6
④医師の言葉遣いや態度	27.1	61.2	11.1	0.7	78.7
⑤検査・放射線技師の言葉遣いや態度	24.3	60.2	14.4	1.2	76.8
⑥プライバシーへの配慮	18.0	56.3	22.8	2.8	72.3
●接遇面全般について	16.9	65.6	16.3	1.2	74.6
診療サービス面					
①診察待ち時間	5.1	24.1	32.7	38.1	45.7
②診察時間	9.3	44.5	33.4	12.7	61.9
③診察後の支払いまでの待ち時間	9.0	44.4	35.6	11.1	62.2
④看護師の説明のわかりやすさ	15.6	61.8	20.4	2.2	72.7
⑤医師の病状や検査結果の説明	20.8	58.2	18.0	3.0	74.1
⑥医師への質問や相談のしやすさ	19.6	55.6	21.0	3.8	72.6
●診療科でのサービス全般について	13.9	59.4	25.3	1.5	71.4

2.患者さん満足度調査の結果 〈入院部門〉

平成20年2月から3月の間に、入院患者さんに、退院時に下の表に示す各項目に関してアンケートによるご評価をいただきました。詳細は、下の表をごらんいただければ結構ですが、大体の結果をここに述べさせていただきます。

まず、当院への入院を選択された理由としては、「良い医師がいるから」とか「家や通勤先から近いから」が多い傾向にありました。次いで、3番目に多かったのは「救急受け入れで」という理由であり、これは当院の富山医療圏二次救急輪番病院としての特徴かと思われました。

また、退院時に調査させていただきました満足度については、院内施設面、病室環境面、接遇面、および診療サービス面のいずれにおいても、比較的良好な結果が得られ、全ての項目で、平均的な病院を上回っている結果が得られました。しかし、その中には、売店・食事・自動販売機、あるいは、食事の内容など、前回並みもしくはやや前回より満足度の低かった項目も含まれており、今後一層の改善の努力が必要と考えております。

また、言葉遣い、態度やプライバシーへの配慮といった接遇面に対する患者さんのご評価は、病院運営上非常に優先度の高い項目ですが、当院は平均的な病院の成績こそ上回るものの、まだ改善の余地があると思われ、研鑽に励んでまいりたいと思います。

・調査期間:平成20年2月～3月

・回答者数:247人

〈凡例〉

(%)

非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満+不満
-------	----	-----------	---------

*インデックスは、非常に満足(100点)、満足(75点)、
 どちらともいえない(50点)、やや不満(25点)、不満(0点)の合計点
 インデックス(100点満点)

項目	非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満+不満	インデックス
院内施設面					
①建物の外観やつくり	22.1	68.5	8.5	0.9	78.0
②医療機器等の設備	30.6	56.8	12.7		79.5
③トイレ、洗面、給湯等の設備	25.4	59.7	10.2	4.6	76.3
④売店・食堂・自動販売機	10.6	52.0	27.3	10.1	65.0
⑤整理整頓や清掃状態	25.1	59.0	13.0	2.9	76.4
●院内施設全般について	20.4	65.9	13.7	0.0	76.7
病室環境面					
①病室の居心地(清潔さ・広さなど)	29.9	58.1	10.4	1.7	79.0
②ベッド、寝具、ベッド周り設備	20.2	62.6	13.0	4.2	74.7
③冷暖房や証明	21.9	59.5	16.0	2.5	75.1
④食事の内容	12.1	47.7	31.8	8.3	62.2
⑤食事時間や起床・消灯時間	14.0	63.0	20.9	2.1	72.2
●病室環境面全般について	20.9	64.3	13.6	1.3	76.1
接遇面					
①事務職員の言葉遣いや態度	37.7	52.4	9.5	0.4	81.7
②看護師の言葉遣いや態度	41.7	48.8	8.3	1.2	82.7
③医師の言葉遣いや態度	47.7	44.0	7.9	0.4	84.8
④検査・放射線技師の言葉遣いや態度	39.0	53.1	7.5	0.4	82.7
⑤プライバシーへの配慮	29.9	52.8	15.2	2.1	77.5
●接遇面全般について	30.5	54.9	13.7	0.9	78.8
診療サービス面					
①看護師の説明のわかりやすさ	34.3	56.5	8.4	0.8	81.1
②看護師の採血や介助の手際のよさ	32.9	54.0	10.1	2.9	79.1
③医師への質問や相談のしやすさ	34.7	51.0	11.7	2.5	79.3
④医師の病状や検査結果の説明	41.0	46.9	10.9	1.2	81.7
⑤医師の病状に対する処置の適切さ	41.9	48.5	9.1	0.4	83.0
●診療サービス面全般について	32.9	54.7	11.1	1.3	79.7

3.患者さんから具体的にいただいたご意見につきまして

外来部門

具体的にいただいたご意見の中で、目立ったのはやはり外来の待ち時間に関するものでした。

外来予約制として、診察の予約時間というものを設定している以上、それを守る努力をするのは当然のことです。しかし、現在は予約して診察できると設定している人数を、実際の受診される患者さんの数が上回っている状況です。つまり、予約時間を守るのは不可能な状況での予約診察を行なっているわけです。

これを改善するには、医師の数を増やすか、患者さんの数を減らすかのどちらかしか手立てはありません。お一人にかかる診察時間を短縮するのは、診療内容の低下につながり限界があります。また、昨今の新聞テレビなどでも報道されている通り、富山県の医師数は減少の傾向にあり、増員を望むのは非常にむずかしい状況です。したがって現在当院では、症状の落ち着いた患者さんをお近くの開業医さんなどへ紹介する地域病診連携を推進中です。今後も安全で医療ミスのない確実な診療を保つためにも、何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

その他、バスの本数が少ない、総合受付の手荷物や杖を置くところが欲しい、あるいは外来食堂のメニューにカロリーを表示しては、など是非検討させていただきたい点のご指摘をいただきました。このうち総合受付の杖置きに関しては、すでに杖たての設置を終えております。他につきましても現在検討中です。



入院部門

いろいろのご意見をいただきました。中でも、入院中の食事や清掃に関するもの、テレビカードの購入時の両替の問題、新聞コーナーの設置など、アメニティに関するご意見は改善を要する重要な点と考えました。現在までに、これらの点のうち、新聞コーナーにつきまして、外来1階と2階の2ヶ所に設置を完了いたしております。どうぞご利用いただけましたら幸いです。その他、医師、看護師などに対する感謝のご意見もいただきました。本当にありがとうございました。今後も、職員一同より快適な入院生活を目指して努力してまいります。



4.おわりに

当院では、今後も同様の調査を定期的に行ない、その結果を元に不断の改善の努力を行なっていく所存です。今後とも、ご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。





7対1看護体制づくりと看護の 専門性を高めて魅力ある病院づくり ～新人看護師手厚く指導～

済生会富山病院 看護部長 山崎 列子

平成18年の診療報酬改訂で、入院患者7人に対し看護師1人を配置する手厚い配置区分が新設され、当院は平成20年7月から体制を整えることが出来ました。

昨今、全国の病院で看護師争奪戦が激化しています。県内においても各病院が、1人でも多くの看護師を確保しようと取り組む中、当院でも危機感を持ち、対策を考えました。その取り組みとして、平成18年度に県主催で開催された「新卒看護師にやさしいモデル病院事業」に参画し、平成19年度から新教育体制で新人看護師の指導に乗り出しました。新しい教育体制として、①先輩看護師の後にぴったり着いて回り、仕事の流れを把握する「シャドー研修」②新人が集い悩みを語り合える「リフレッシュ研修」③コーチングを習得しコミュニケーション能力を高める「管理研修」を取り入れました。新人の教育にあたり、決して特別な奇策は取ってはいませんが、「スタッフ全員で新人を育てるという意識」を大切に、分からない事は何でも質問できる雰囲気づくりに努めてきました。



管理研修

しかし、職場の特長として、結婚、出産適齢期の看護師を多く抱えているので、安心して仕事ができる環境を維持するために、看護師の絶対数の確保が常時求められる現状です。

平成19年度と20年度の新規採用者が、当院を選んだ理由は、①新卒者にやさしいモデル病院であるから、②脳卒中センターがあるから、③先輩に誘われて、④その他として、病院の理念・看護部の理念が自分の考えに合っていたからなどの順でした。

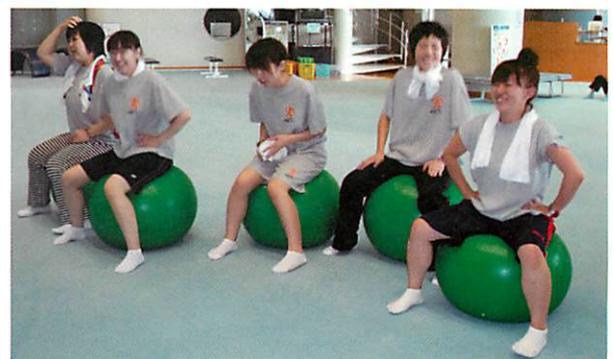


管理研修(コーチング)

モデル病院事業に参加して、当院として明らかになったことは

- ・新卒者は病院の新人教育に期待を抱いている。
- ・病院の理念、看護部の理念、病院の特色、看護部の特色が病院選びの対象になっている。
- ・スタッフ全員で新卒者を育てるという意識づけが大切である。
- ・新卒者をとりまくスタッフの質の向上も必要である。
- ・特に管理者にはコミュニケーション能力や、コーチング能力が求められる。

以上のことから、7対1の看護体制は整ったものの、今後は質を担保する看護の「手厚さ」とはいかなるものかを、考えながら魅力ある病院づくりを進めていきたいと思っています。そのためには、看護師のモチベーションを維持・向上させ、働きやすい職場環境をつくって診療報酬改定に望むことが大きな底力となり、看護師確保にもつながると信じています。



リフレッシュ研修



感染管理認定看護師

済生会富山病院 感染管理者・看護師長 千田 昌代

H19年度に東京で6ヶ月間の感染管理教育を受け、多くの知識を得ることができました。感染管理認定看護師の目指すゴールは、「医療環境で患者、医療従事者と訪問者、その他の人たちを守ること」「可能な限り費用効果の高い方法で守ること」です。当院の基本方針の「医療水準の向上に努め、良質で安全な医療を提供します。」に沿い、常に目標を持って活動したいと考えています。

感染管理の目的は、病院感染の発症を減少させることです。病院感染とは、病院において入院患者さんが原疾患とは別に新たな感染を受けること、病院で働く人々が感染を受けることです。医療従事者が理解し実践できるように感染管理プログラムに沿ってあらゆる支援を行う必要があると考えています。そのプログラムの内容は、①感染管理組織とシステム②院内感染サーベイランスの実施③感染防止技術の向上④職業感染防止⑤感染管理教育と啓発⑥コンサルテーションの実施⑦ファシリティマネジメント（医療廃棄物の処理・清掃・空調設備・水

質管理・給食に関する療養環境の整備）の推進の7項目です。

教育期間中に受けた微生物実習で「実際には目に見えない細菌だが、それが見えるようになりなさい」と言われたことが印象的です。アニメ「もやしもん」の主人公は微生物が肉眼で見えています。イメージ的にはこのようになれるように、学習した知識を活用して病院全体に働きかけていきたいと思えます。現在は看護部の感染予防対策の教育に力を入れています。私たち看護師は、ベッドサイドに行き患者さんの療養環境を直接整えることができます。また実際にケアをする中で感染リスクがあるか、感染防止技術は正しいのかを具体的に考えることができます。

安全な療養環境を確保し、医療・ケアの質を向上させ、感染による不必要な経費を削減しつつ、患者さんの満足度を高めることができるように、今後活動範囲を広げていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。





がん性疼痛看護認定看護師

済生会富山病院 看護師長 柳原照代

昨年の9月4日から3月19日までの7か月間、千葉県社会保険看護研修センターでの、がん性疼痛看護認定教育課程の研修を終え、6月13日「がん性疼痛看護認定看護師」として合格しました。

私が認定看護師を目指した理由は、痛みに苦しみ症状緩和が十分に図られない患者さんの状態に、「その人の痛みを理解し、看護に生かしたい」と気持ちからでした。

研修中は、痛みの解剖生理・痛みのメカニズムといった専門的な知識に加え、疼痛緩和のための薬物療法や、マッサージ・アロマセラピー・音楽療法・温熱療法など非薬物療法や代替補完療法といった多くのことを学びました。そして、痛みに対する新しい知識が深まることへの喜びと同時に、人の痛みを理解することの難しさを知り、認定看護師としての責任の重さを感じました。

日本看護協会が指し示す認定看護師の役割は、「実践・指導・相談」の3つです。このことを基本に、自分自身が患者さんの訴えを耳で聴き、目で確かめて、今回の研修で得た、知識・技術を活用し、看護実践モデルとして認定看護師としての役割を遂行すること。そして、患者さんがその人らしいQOL維持のため、「決して、痛みのある人から逃げず、最後まで向き合い続けていくこと」を忘れないことです。

現在は入院患者さんを中心に、痛みのある患者さんへの疼痛緩和をおこなっています。今後は、外来・在宅で様々な痛みを抱え、悩んでいる方々の疼痛

緩和に関わっていければと思っています。そして、最新の情報を敏感にキャッチし他職種と共に考え、地域性を生かし急性期病院ならではのチーム医療を実践していくことが目標です。

最後に、今回の研修参加に際し、支えてくださった職場の皆様に深く感謝申し上げます。





緩和ケア認定看護師

済生会富山病院 主任看護師 場家 豊美

昨年、はるばる北の大地で緩和ケア認定看護師教育課程を修了し、このたび晴れて、緩和ケア認定看護師となることができました。快く送り出してくださいました関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。研修期間中は、自分の理解力の乏しさに大変苦勞し、涙することもありました。そのたびに、院内の多くの方々からの温かい応援の声や励ましの言葉を思い出し、自分を奮い立たせていました。本当にありがとうございました。

【緩和ケア認定看護師の役割】

緩和ケアとは、終末期のケアを必要とする方が対象ではなく、がんと診断された時から始まります。そして、治療、退院（社会復帰）、がんと共存、再発・転移などのプロセスにおいて、患者さんの痛みや痛み以外の諸症状、心理的苦痛、社会的な問題を積極的に緩和していくことです。ご家族もまたケアの対象であり、患者さんが病気と闘っている時から、看取りを迎える時、死別した後まで支援していきます。最期を迎えるその時まで、患者さんおひとりお1人の意志を大切に、生きることを支え、患者さん・ご家族のQOL（生活の質・命の質）の向上を目標としています。

最新がん統計によると、生涯でがんに罹患する確率は、男性49%（2人に1人）、女性37%（3人に1人）と、年々増加傾向にあります。当院においても、今後さらに緩和ケアが必要となる患者さん、ご家族が増えることが予測され、医療スタッフに対して、緩和ケアの普及と、看護の質の向上を目指し、実践に関する相談や指導を行っていきます。

【今後の活動】

まずは、入院中の患者さんの痛みや身体のだるさ、息苦しさなどの身体的苦痛に対して、少しでも軽減できるように努めていきたいと考えています。また、身体のつらさだけでなく、プロセスに応じて出現する患者さん、ご家族のさまざまな不安や気がかりなことなど、多くの心の揺れに対して理解に努め、支えていくことを大切にしたいと思っています。

現在は病棟のみでの活動ですが、外来でのがん告知や治療に関するさまざまな意思決定、化学療法をうけながらんと共存している患者さん、また患者さんを支えるご家族に対しての支援体制づくりが必要であり、今後の課題であると考えています。





30年の感謝の思いを胸に

済生会富山病院 副看護部長 金山 洋子

第61回済生会学会および平成20年度済生会総会が10月18日、総裁寛仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、岡山市において盛大に開催されました。

その総会におきまして、30年勤続の表彰を受けることができ、光栄に思います。

振り返りますと、昭和53年3月、私が通っていた看護学校は公立病院の付属でしたので、ほとんどの同級生はそちらに就職したのですが、私はなぜかこの済生会に惹かれて就職しました。以後、結婚、出産、育児、家族の病気など人生の大半を済生会の組織の中で過ごしてまいりました。いろいろなことを乗り越え、ここまでこられたのも周りの関係者の方々のおかげと深く感謝しております。

このたび総会が行われた岡山は20年以上も前に、済生会の臨床指導者研修で、2週間滞在したところです。あまり記憶もないのですが、岡山済生会病院での実習で、師長さんの方言交じりの説明を聞いて、心組みあたたかく感じたことを思い出します。

病院では、はじめ脳外科病棟に配属されました。その頃病院は、富山駅に近く、北日本新聞社のとなりがありました。患者さんは、住む所のない人や身寄りのない方もよく入院され、それぞれの事情を聞いて、ケースワーカーと解決するということが、よく関わらせてもらいました。一度ケースワーカーと患者さんの自宅を訪れる機会がありました。患者さんのお宅訪問は初めてで、とても緊張していたことを覚えています。そして、患者さんの自宅にいるとき、患者さんとの距離が近くなり、言葉では言い表せないつながりを感じました。

そして、平成12年より介護保険制度がスタートし、ケアマネージャーになったこともあって、居宅介護

支援事業の訪問看護を6年間経験させていただきました。そのことで、今まで病院の中では、見えていなかったことや、イメージすることができなかった患者さんや家族の思いや状況を知ることができました。さらに、自分が済生会病院の一員であるということで、信頼され受け入れられていることがわかりました。また、自分の肉親の病気から、介護を考えなければならなくなったとき、家で看るということは、こんなに多くの課題があるのかということがわかりました。今まで、訪問しながら良くわかったつもりだったので、当然自分も家で見ていける、何とかかなと思っていました。介護力や家事や仕事、家業との兼ね合いを考えると、簡単ではないということが現実になりました。あらためて、在宅で介護されている方々の大変さを実感し、関わったすべての方々の顔が浮かび、すばらしい生き方をしておられることに尊敬の思いを感じました。

今は、病棟勤務となり、本年度、副看護部長という職を拝命しました。職の重さに不安いっぱいですが、私を支え・育ててくれた、多くの方々の中で学んだことを生かしながらか、みんなが明るく、やりがいを持って、それぞれの看護が生かせるような職場を目指して、日々努力していきたいと思っております。



部署紹介

済生会富山病院 臨床工学科

臨床工学技士 松原 涼子 南 亜由美
筒口 崇之 松本 安史

平成16年にME室が設置され4年が経ちました。今年の4月には臨床工学科として独立し、2名の臨床工学技士が増員され、現在4名で様々な仕事をしています。

ところで、臨床工学技士と聞いてもピンと来ない方も多いのではないのでしょうか？

私達がいったいどんな仕事をしているのかというと、

- ・人工透析センターでの透析業務、人工透析装置の保守点検
- ・人工呼吸器の保守点検、使用中の病棟巡回
- ・点滴を入れるための輸液ポンプやシリンジポンプなどの保守点検、中央管理
- ・手術室での麻酔器の保守点検、手術で使う機械の操作
- ・救急処置室内の医療機器の保守点検、器材の整備
- ・計画に沿った医療機器の定期点検の実施
- ・医療機器の勉強会の企画、実施
- ・機械トラブル発生時の対処
- ・医療機器の修理

をしています。どちらかというと機械の方をメインにやっています。

しかし機械がメインと言っても、実際に機械を使って治療を受ける患者さんや、機械を操作する現場の人など様々な人との繋がりが

あります。

これから臨床工学科が扱う機械はさらに増えていくものと考えられ、各医療機器メーカーの講習会にも積極的に参加し、機械の知識と点検や修理に必要な技術も身につけています。また、学会にも参加して認定資格の取得も目標としています。

患者さんと直に接する機会は少ないのですが、安全な医療を提供するために努力してまいります。臨床工学科をどうぞよろしく願います。



新企画 脳卒中合宿セミナーを開催して

済生会富山病院 看護師長 三輪 恵里

平成19年4月に県内最初の脳卒中ケア病床(SCU)が開設され、早2年目を迎えることとなりました。

24時間365日脳卒中患者さんの受け入れを行なうために、脳卒中の看護経験豊かな看護師と、若くてやる気に満ちあふれた看護師を揃え対応しました。環境を整え順調なようでしたが、6床という病床数のなかで昼夜を問わず入院される患者さんを、受け入れていくには、ベッドの回転をかなりスピードアップしないと入院受け入れができない現実がそこにありました。当然そのスピードに対応するためには、マンパワー(関連医療スタッフ特に看護力)の確保と質の高い医療の提供が求められます。その質の高い医療を提供するにあたり、個人レベルでの学習・病棟単位での勉強会を実施して、レベルアップを図ってきました。でもそれだけでは足りません。“脳卒中チームとしての連携”つまり多職種間のチームワーク、知識及び情報の共通理解が必要ではないか、という強い思いが湧いてきました。そこで、チームとしての知識を深め全体のレベルアップを図るために企画したのが、この脳卒中合宿セミナーです。

2年目に入りようやく前述での脳卒中合宿セミナー開催に向け、始動し始めました。7月12日13日をセミナー実施日としたのはよかったです。なんと会場の探索がその1ヶ月前の6月であり、なかなか厳しい状況でした。そして会場は、なるべく受講者の負担が少ない、交通の便が良くて低額な会場をポイントに、インターネットや電話で探索しました。結果、富山駅北口に近いサンフォルテが最有力候補となり決定しました。決定してからは、台風が過ぎるが如く瞬間に講義内容の資料作成、そして教科書作成と忙しい日々連続でした。そして開催…日頃から聞くことのできなかった専門的講義内容、手術・レントゲン画像、リハビリ演習など盛りだくさんの研修でした。夜遅くまで会話がはずみ、多職種間での理解が深まり達成感を得ることができました。

今回の企画をご理解いただき支援して頂いた病院関係の皆様方、本当にありがとうございました。

これからもバージョンアップしたセミナーとして継続していくことをお約束し、今回のセミナー開催の報告とさせていただきます。



済生会富山病院報

発行者
富山県済生会富山病院
院長 利波 紀久

【編集委員会】

石 崎 宗 一 郎	和 泉 千 晴 表 寺 朱 美
風 間 泰 蔵	加 藤 智 代 坂 田 亜 由 美
佐 々 木 正 詞	下 司 洋 臣 土 田 裕 子
西 川 和 良	二 谷 立 介 堀 田 裕 富
南 沢 宏 山 口 綾 山 本 夫	

〒931-8533 富山市楠木33番1 TEL(076)437-1111(代)FAX(076)437-1122

ホームページアドレス <http://www.saiseikai-toyama.jp/>

メールアドレス saiseikai-soumu@gaea.ocn.ne.jp